

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	✓

活動団体名：特定非営利活動法人
とくしまコウノトリ基金

活動地域：徳島県

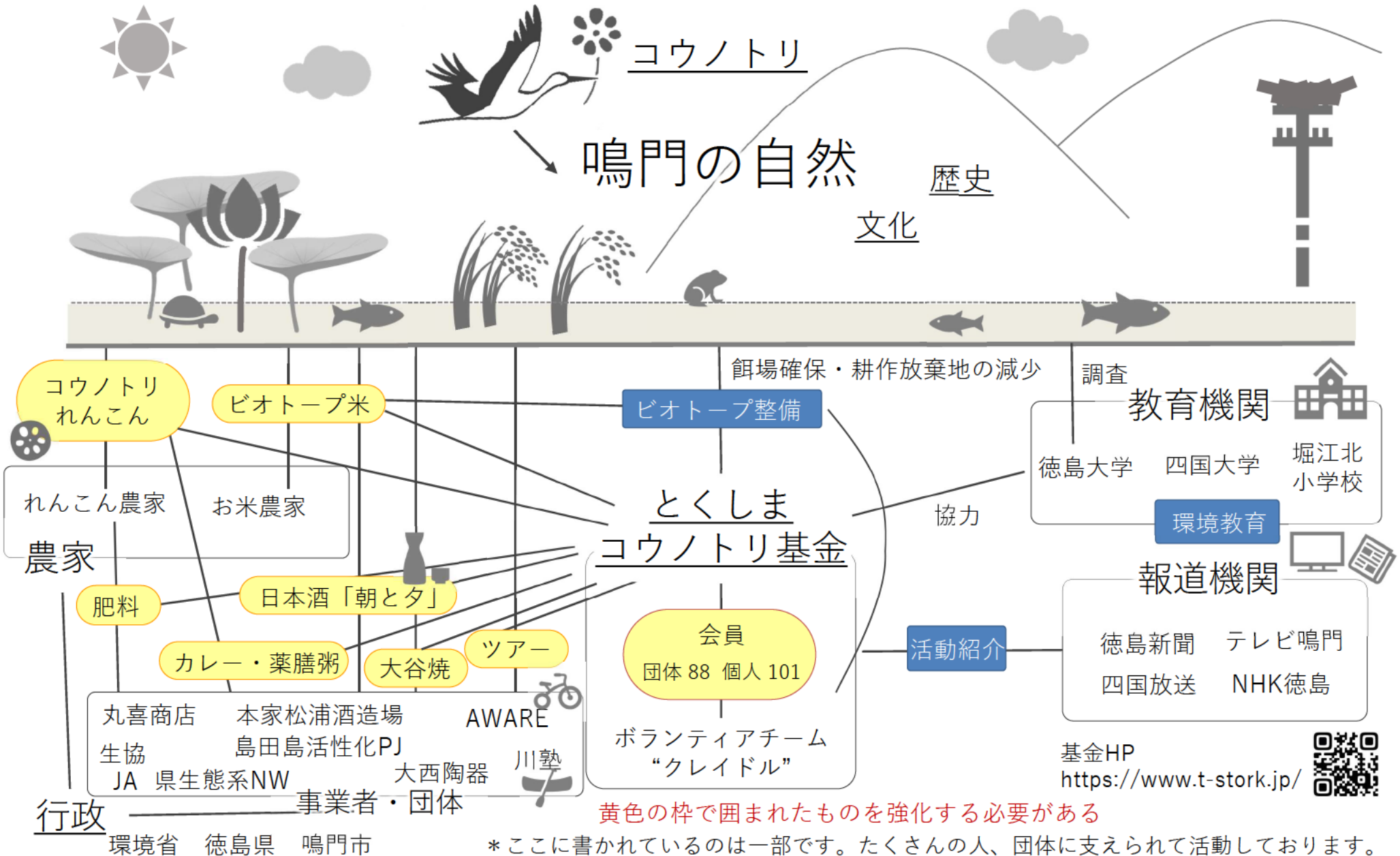
活動におけるテーマ・キャッチコピー

コウノトリの野生復帰で地域をパワーアップ

活動団体紹介・目指す地域の姿

ありたい地域の未来

コウノトリの野生復帰を通じて地域の経済や社会を元気に。



黄色の枠で囲まれたものを強化する必要がある

*ここに書かれているのは一部です。たくさんの人、団体に支えられて活動しております。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと①

事業名称	エコツアー						
事業の あらすじ・ ストーリー	コウノトリの生息エリアを自転車やカヌーを使って楽しく散策しながら、ビオトープ米でお酒を造るプロジェクトや基金の活動について紹介するようなツアーを企画し、途中活動に賛同し協力してくださっている事業者を訪問することで鳴門の環境を守る活動だけでなく、地域の事業者のPRや購買にもつながり、地域経済も循環する。						
今年度の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ●8月1日 「れんこん畑をかけめぐるポタリングツアー」 事業主体者：株式会社AWA-RE SUIMI ●10月13日 「大谷川カヌーモニターツアー」 事業主体者：NPO法人川塾 ●12月9日 「自転車、カヌーツアー試走」 事業主体者：株式会社AWA-RE SUIMI NPO法人川塾 ●2月15日 オンラインシンポジウム 「コウノトリからはじまるAdventure Tourism2022」を開催 参加者：74名（事前申込88名） 概要：専門家に大正大学の岩浅有記氏に来ていただいてAdventure Tourism（以下：AT）についてや徳島県でのATの可能性などを教えていただいたあと、鳴門での取組みを3名、徳島県の海陽町、上勝町、つるぎ町での取組みを各1名に発表していただいた後、「(海陽町、上勝町、つるぎ町)と鳴門をつなぐAT」というテーマでそれぞれの3地域に分かれ、グループディスカッションを行い考えられる徳島県でのATの可能性を探った。 ●今年度増えた主要なステークホルダー <table border="0" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 33%;">・岩浅有記（大正大学 准教授）</td> <td style="width: 33%;">・永原レキ（inBetweenBlues/合同会社みつぐるま）</td> </tr> <tr> <td>・池添亜希（RISE & WIN Brewing Co.）</td> <td>・牛尾 健（Trip四国の川の案内人）</td> </tr> <tr> <td>・前田志穂（一般社団法人 そらの郷）</td> <td>・中島 茂之（アワガミファクトリー）</td> </tr> </table> 	・岩浅有記（大正大学 准教授）	・永原レキ（inBetweenBlues/合同会社みつぐるま）	・池添亜希（RISE & WIN Brewing Co.）	・牛尾 健（Trip四国の川の案内人）	・前田志穂（一般社団法人 そらの郷）	・中島 茂之（アワガミファクトリー）
・岩浅有記（大正大学 准教授）	・永原レキ（inBetweenBlues/合同会社みつぐるま）						
・池添亜希（RISE & WIN Brewing Co.）	・牛尾 健（Trip四国の川の案内人）						
・前田志穂（一般社団法人 そらの郷）	・中島 茂之（アワガミファクトリー）						
進捗状況	宿泊を伴う県内ツアーを予定していたが、専門家の岩浅氏に来ていただいたことによって、ATという概念がわりより内容の濃いものができそうである。また、シンポジウムを開催したことでステークホルダーの輪が大きく広がった。3月末までにできる可能性のあるものをスモールスタートさせる（チャレンジしてみる）。						




地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと①

コウノトリからはじまる

Adventure Tourism2022

とくしまコウノトリ基金は、鳴門市大麻町に定着したコウノトリの観察、エサ場であるレンコン田や水路の生き物調査、レンコン農家のお話を紹介する活動を、市民に向けて行ってきました。それらに加え、吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会と連携し、コウノトリペアが暮らす同じ町内の酒蔵や大谷焼の窯元を自転車でも回るツアーや、近くの川をカヌーでくんだり、歴史を学ぶツアーも進めています。当初から進めていたコウノトリを軸とした自然体験ツアーも、地域の歴史や文化を知るツーリズムに発展しつつあり、このようなツーリズムは海外で注目されるAdventure Tourism(AT:アドベンチャー・ツーリズム)のコンセプトと共通します。今回のシンポジウムでは、世界で拡大するAdventure Tourismへの理解を深め、インバウンドや国内旅行における鳴門や徳島県でのATの可能性や課題について議論します。

- 日時** 2022年 2月15日(火) 開始 13:30 (13:10開場) 終了 16:00(予定)
- 会場** オンライン (Zoom) *PCを使用することをお勧めいたします。
- 募集人数** 先着100名
- 参加方法** 2月13日までに右のQRから事前登録をお願いいたします。
 *詳しくは「NPO法人とくしまコウノトリ基金」のHPをご覧ください。
<https://www.t-stork.jp/information/2953/> (ここからでも事前登録できます)
 *事前登録の状況によっては応募を締め切る場合がございます。  事前登録フォーム

2022
2月15日(火)
13:30~16:00

参加無料
事前登録必要



基調講演

「海外のAdventure Tourismと日本の可能性」

徳島県阿南市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科修了。2003年環境省入省。トキの野生復帰、自然公園法改正、生物多様性国家戦略策定、国交省に提出しグリーンインフラ政策策定、環境省帰任後も国立公園清見プロジェクト、尾瀬・伊豆諸島での共同型管理体制構築、奄美・沖縄自然遺産登録準備等を担う。沖縄においてはAT推進に尽力し、内閣府沖縄総合事務局等との連携経験も豊富。2021年4月より現職。

大正大学
地域構想研究所
准教授

岩浅 有記
Yuki Iwasa

プログラム

- 13:30 開会
- 13:35 基調講演
「海外のAdventure Tourismと日本の可能性」 岩浅 有記 (大正大学 准教授)
- 14:05 鳴門のAdventure Tourismの可能性
「コウノトリ基金が取組むツーリズム」 河田 奈弓 (とくしまコウノトリ基金)
「本家松浦酒造の取組み」 松浦 素子 (本家松浦酒造場)
「宿泊施設とツーリズム」 塩崎 桂子 (アオアヲナルトリゾート)
- 14:20 休憩
- 14:30 徳島のAdventure Tourismの可能性
永原 レキ ・海陽町 池添 亜希 ・上勝町 牛尾 健 ・つるぎ町
(inBetweenBlues/合同会社みつぐるま) (RISE & WIN Brewing Co.) (Trip四国の川の案内人)
- 15:00 ディスカッション
「コウノトリからはじまるAdventure Tourism」
- 16:00 閉会



共催：NPO法人とくしまコウノトリ基金
徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会
協力：徳島大学河口研究室、応用生態工学会松山

このシンポジウムは環境省の「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」の支援を受けて実施します。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

事業名称	ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト
事業の あらすじ・ ストーリー	農家、地元事業者、報道、大学、行政、様々な団体、個人が協力し地域の環境、経済、環境と循環させていく。
今年度の 取組	<p> コウノトリが利用していた田んぼにより水生生物が増える工夫をし、「特別栽培」で生産したお米で地元の酒蔵が日本酒を造り、その売上げの一部をコウノトリをまもる活動に寄付していただき、農村で資源と経済が循環する仕組みづくりを構築した。 </p> <p> 2020年春から取り組んでいるこのプロジェクトを引き続き行った。 2年目となる今年は協力農家が1戸増えたため、作付け面積が2倍強になった。そのため、去年は約1300本の商品ができたが、今年は約3000本となった。(2.3倍増) また、そのうち1700本はコープ自然派で扱っていただけることになり、昨年よりも、より商品に関心がある人の手にとってもらいやすくなった。 3月1日からは約1か月間徳島の阿波踊り会館でスペースを借り、PRする予定である。 </p> <p> 今年度増えた主要なステークホルダー ・生協（コープ自然派） </p>
進捗状況	本家松浦酒造の醸造スケジュールの都合上、2年目の販売は4月末になってしまったが、概ね順調に進んでいる。コロナの状況下でなければ大々的に試飲会をするなどPRをもっと行いたかった。当初、余った醸造用米を「朝と夕」と名前を付けてお米として販売する予定であったが、収穫すべてのお米がお酒用に必要になったため、販売することができなかった。



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

幸せを運ぶ
コウノトリからの
贈り物



鳴門鯛 特別純米
コウノトリの酒



飲んで
応援しよう!

コウノトリを応援しています

売上金の一部はNPO法人とくしまコウノトリ基金に寄付し
コウノトリの野生復帰を進める活動に使われます

コウノトリが教えてくれた徳島の自然を
私たちと一緒に守りませんか?

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと③

事業名称	コウノトリれんこんの販売促進、販路拡大
事業の あらすじ・ ストーリー	コウノトリにとってレンコン畑は優良な餌場であり、重要な存在である。より環境に配慮したレンコンのブランドづくりをすることで、鳴門の環境と経済をまわしていく。
今年度の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ●コウノトリれんこん <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまの情報誌「めぐる、」での特集 ・「コウノトリれんこん」のPR動画の制作 ・アカデミックレストラン西宮・東京（ともにオンライン） ・「徳島県産れんこん味わいフェア」 飲食店11店舗で料理を提供 ・無印良品京都山科店でコウノトリれんこんの取り扱い開始 ・伊勢丹での徳島県野菜フェアに出品 ●寄付商品 <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門の焼き物「大谷焼」の2つの窯元と協力し、新たな商品ができた。 （1つは販売中で、もう一つは3月上旬の焼き上がりを見て商品化） ・4月29日にオープンする鳴門の道の駅と協議を行い、協力体制が得られそうである。 ・株式会社柚子っ子と島田島活性化プロジェクトの商品が加わった。 ●今年度増えた主要なステークホルダー <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまブランド推進機構 ・株式会社あわわ ・大西陶器 ・梅里窯 ・株式会社シンカ ・株式会社柚子っ子 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;">   </div>
進捗状況	コウノトリれんこんの販路拡大のために各種のキャンペーンを実施した。東京での販路は仲買人との連携の可能性が出てきた。関西での販路は、一部であるが京都と大阪の卸売市場経由のルートが出来つつある。寄付商品は、少しずつアイテムがふえつつある。

今年度の取組を通じて得た気づきや課題

- エコツアー関連の専門家派遣は大きな成果があった。（岩浅准教授は徳島県出身であり、基金メンバーとつながりがあったためマッチングしやすかった。）
- 新しくできる鳴門の道の駅と協力体制を築いていきたいが、JAの農産直市「えがお」と一部競合するため、慎重に進める必要がある。
- コウノトリれんこんの販促活動の結果、関西や東京で野菜ソムリエやレストランなどから購入したいとの要望を頂けたが、流通ルートは一部しか確立できなかった。
- 環境省の助言もあり生協との連携構築に努めたところ、寄付商品の取り扱いだけでなく、環境活動への資金助成をして頂ける可能性が出てきた。当初は予想していなかった展開で、ステークホルダーづくりの重要性を痛感した。また、ほかにも企業からの助成を頂けることになったが、これらは共生圏事業により活発な活動ができたことが評価されたものと感謝している。

今後の展望

●エコツアー

シンポジウムを開催して、徳島の海陽町、上勝町、つるぎ町とのつながりができたので、ツアーコース(移動型AT)ができるように今後も進めていく。また、鳴門海峡に面した島田島でも、地元と連携してビオトープ整備や体験コンテンツづくりを進め、鳴門内で完結するツアーコース(定点型AT)も検討する。

●「朝と夕」ブランドの構築

今年度は生協との連携により1年目よりも約2.3倍の商品を販売できるようになった。4月末にできる商品の売れ行きにもよるが、協力農家を増やし、収量を上げてお酒の販売数を増やしていきたい。

●コウノトリれんこん

需要の掘り起こしに一定の手応えは得られたが、供給体制（集荷、出荷）の脆弱さから対応しきれていない。これを改善するのは時間を要すると思われる。

●資金システムと活動の担い手づくり

会費、寄付商品、助成金、受託事業などによる収入が増加しつつある。この資金システムをより強固にし、近いうちに活動を継続するための担い手（有給職員）をつくりたい。